



川崎市立川崎病院
シンボルツリー

くすの木

川崎市立川崎病院の基本理念

私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。



川崎市

✓ 患者総合サポートセンターが4月1日開設！



患者総合サポートセンターでは、皆様が日ごろ診察を受けている「かかりつけ医」の先生からの紹介を受け、円滑に診療や検査が受けられるよう当院の診療科へつないでいきます。また、入院患者さんの退院支援や、生活上の課題などの相談にあたり、医療と福祉の両面からの支援を行います。さらに、「がん相談支援センター」では、がんに関する相談や情報提供を通じて患者さんの様々な状況に対応していく体制を整えています。

これらの業務を円滑に行うためには、地域にお住まいの方々や開業医の先生方との連携を深めることが必要と考えております。そのため、広報活動や様々な研修会・講演会の開催を通じて、当院の理解を深めていただけるよう努めてまいります。

より地域と密着した医療機関を目指して、川崎病院は進んでいきます。

「患者総合サポートセンター」をどうぞよろしくお願いいたします。

✓ 慶應義塾大学病院 北川病院長が来訪されました！

川崎病院は、最新の医学・医療・病院運営等に関する知識や情報を共有するために、慶應義塾大学病院と提携し、多くの関連病院とともに医療ネットワークを形成しています。

平成30年3月2日（金）、慶應義塾大学病院の北川雄光病院長が当院を来訪されました。北川病院長は外科学が専門であり、当日は当院成松病院長や外科医局員と先進的な医療情報や、患者さんに優しく信頼される病院運営等について活発に意見交換が行われました。

平成30年3月には、当院が本市の基幹病院として今後の人口の増加や高齢化に伴う医療需要の伸びに的確に対応するために「医療機能再編整備基本計画」が策定されました。一方、慶應義塾大学病院では世界を先導する医療人育成と、最先端研究が展開される国際研究拠点としての役割を担うために、現在新病棟の建設が進められています。

こうした動きの中、当院と慶應義塾大学病院との連携体制を一層深め、これからも当院の患者さんに先進的で高度な医療が確実に提供されるよう取り組んでまいります。



川崎病院
成松芳明 病院長

慶應義塾大学病院
北川雄光 病院長

✓ 新副院長からのご挨拶

1年ぶりに川崎病院に戻ってまいりました小柳貴裕（元整形外科部長）と申します。前職井田病院では医療安全の推進、地域包括ケア病棟の運営に関わってきました。両病院とも川崎市南部地域医療構想の圏域内で主役の一端を担うべく、機能分担の骨子の概略を明示する段階に入ってきており、当院は高度急性期医療の中核病院であることを求められています。

当院では化学療法センター勤務と、手術部と大半の外科系の統括が主たる業務となりますが、以前部長として勤務させていただいた整形外科の診療も兼務いたします。また一方で、厚労省は労基法改正など働き方改革に本腰を入れはじめ、医療従事者の過剰労働に対して監視を厳格化してきました。安全を含めた医療のさらなる充実化と激務緩和の両立には、医療スタッフの安定確保とさらなる業務の効率化に関して患者様のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、地域医療の主役であられる診療所の先生方と連携を一層密にし、業務分担、情報の共有を図りたいと考えています。

当院が地域医療支援病院として、川崎南部地域の外科系急性期医療のさらなる充実に真に微力ながら尽力させていただきたいと考えております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長
小柳 貴裕

この4月より川崎病院副院長兼看護部長を拝命いたしました。

思い起こせば、小学校の卒業アルバムに「将来の夢・看護婦」と書き、早40数年・・・そして、その夢が叶い天職と思い務めてきました。しかし、結婚・育児・介護と仕事の両立は、決して順風満帆に経過したわけではなく、思い悩むことも度々ありました。

しかし、川崎病院の看護師として、仕事を継続できたのは、待っていてくださる患者さんやご家族がいらしたからだと思います。「ありがとう」「あなたに出会えて良かった」等、思いがけずかけられた言葉に、どれほど励まされたか知れませんが、病と向き合う患者さんから多くを学び、成長させていただいたおかげで今の自分があるのだと感じています。

社会や医療の変化は目まぐるしく、患者さんやご家族の価値観が多様化する中で、「その人らしい生き方」を共に考え、支えることのできる川崎病院であり続けたいと思っています。

地域の医療関係者の方々の力をお借りし、当院職員一丸となって心のある医療を提供できるよう頑張っていきたいと思っています。



副院長
千島 美奈子

当院では、放射線診断科と放射線治療科の2科体制で診療を行っています。

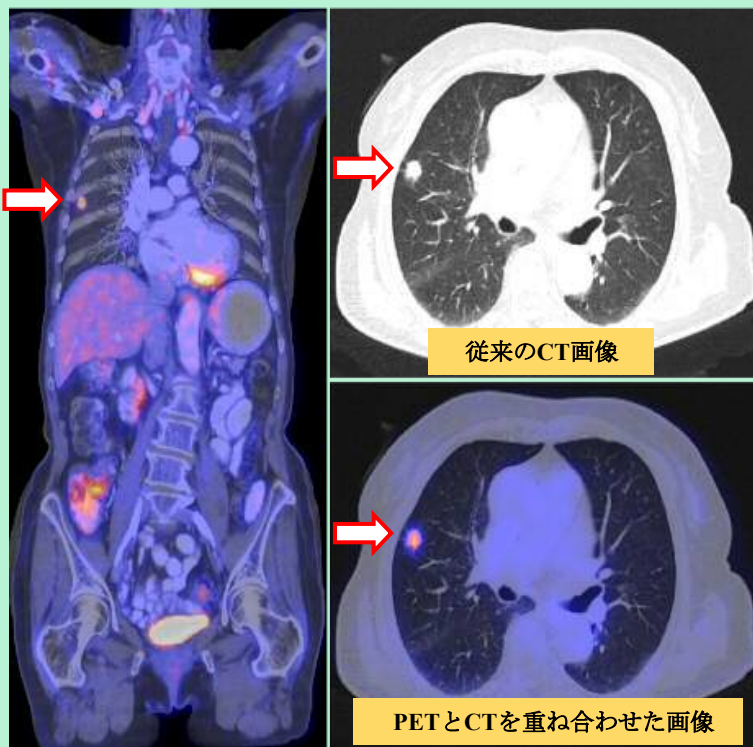
放射線診断科

放射線診断科では、5名の常勤医師と、34名の診療放射線技師が日々の診療を行っています。各診療科や地域の医療機関からの依頼のもと、X線撮影、消化管造影、CT、MRI、核医学、血管造影、腹部超音波などの画像検査を実施しています。また、腫瘍や血管の閉塞に対して「IVR」という画像診断技術を応用した低侵襲治療にも携わっています。

PET-CTを導入しました！

4月より「神奈川県がん診療連携指定病院」として、がん診療の充実を図るため、川崎市南部地域で初めてPET-CT装置を導入しました。

この装置は従来の検査に比べ、がんの広がりや転移、再発病巣の検出等、精度の高い画像を得ることができる装置であり、PET-CT装置の導入により、当院の医療水準の向上を図るとともに、地域の医療機関との連携の強化を進めながら、高度で先進的な医療を提供してまいります。



⇒ 「PET-CT画像」肺がんへの集積

放射線治療科

各診療科との連携のもと、常勤医師2名が主に悪性腫瘍に対する放射線照射を行っています。現場では、医師、放射線治療専任技師、看護師でのチーム医療を行っています。また、通常の放射線治療に加えて、定位放射線治療や強度変



放射線治療装置

調放射線治療（IMRT）といった高精度放射線治療を施行しています。

放射線治療は患者さんへの肉体的負担が少なく、しかも形態や機能を温存することが可能で、手術を行わなくてもがんを治すことができる理想的な治療法の一つです。がんの根治的な治療として用いられるだけでなく、再発に対して有効になる場合もあります。また根治的な治療だけでなく、がんによる痛みに対しての緩和的な治療も放射線治療の重要な役割です。

平成30年度 第1回

入場無料 / 申込不要

市立川崎病院（県がん診療連携指定病院・地域医療支援病院）

市民公開講座のお知らせ

川崎病院では、身近な病気に関わるテーマを専門の医師がわかりやすく解説する「市民公開講座」を開催しています。市民の皆様が気になる“様々な疾患の詳細”、“最新の治療方法”、“予防の早期発見方法”等をきめ細かくお伝えしてまいります。

開催日程

開催日
4/20
金

第1部「すい臓がんの危険なサイン ～診断・治療の最新事情～」

講師：相浦 浩一 医師（内視鏡センター所長）



内視鏡センター所長
相浦 浩一

第2部「がんと暮らし・お金について～気になるけどなかなか聞けないこと～」

講師：大河 寿子 看護師（緩和ケア認定看護師）

日程 4月20日（金） 14:00～15:30

会場 川崎病院7階講堂 / 定員数120名

※当日先着

開催日
6/20
水

第1部「手術って実際どんな感じ？～器械の進歩と譲れない外科医の技術～」

講師：和多田 晋 医師（血管外科部長）



血管外科部長
和多田 晋

第2部「安心して手術を受けるために～麻酔・術前の準備について～」

講師：久野 昭子 看護師（手術看護認定看護師）

日程 6月20日（水） 14:00～15:30

※当日先着

会場 ミューザ川崎シンフォニーホール 4階市民交流室 / 定員数150名

川崎市立川崎病院

看護の日 フェア



2018

5.11 金

入場
無料

11:00 ~ 13:00



AED講習 看護相談

栄養相談 薬剤相談



看護の心を
みんなの心に

〔発行元〕平成30年4月12日発行（第32号）

発行責任者：林 徳厚／編集：広報委員会

事務局：川崎市立川崎病院庶務課 川崎市川崎区新川通12-1 電話：044-233-5521

<http://www.city.kawasaki.jp/32/cmsfiles/contents/0000037/37856/kawasaki/>